



かね のり あき
金子 公亮

生年月 1982年11月静岡県生まれ
最終学歴 2007年首都大学東京大学院工学研究科修了
業務経歴 2007年㈱日建設計入社
現在、設計部門設計部主管
●担当した主なプロジェクト
2009年 土佐堀ダイビル
2009年 金光教大阪センター
2011年 しまね海洋館アクアス
2015年 松江市総合体育館
2016年 広島経済大学明徳館
2018年 和歌山地方合同庁舎

■青年技術者のことば

設計者として大切にしたいと考えていることが2つある。

ひとつは「建築の価値を最大化するための対話をし続けること」
施主は安価で質の高い建築を要求し、設計者は設計を通して自己実現しようと考え、施工者は簡易に作って利益を上げようとする。この目的の異なる三者が集まって初めて建築は実現するが、これを前に進めるために対話が重要であることは明白である。目的が異なる立場であるからこそ、丁寧に対話することで、これまで見落としていた価値に気づくことができ、結果、建築の価値を最大化することにつながると考えている。この「対話」こそが、建築というモノ・コトづくりのダイナミズムであり、私が建築に魅了される最大の理由である。

もうひとつは「土地が持つ文脈を読み解き、それに素直になること」。

建築は土地を得て初めて成立する。建築はいずれなくなるはかないものだが、本来の目的を終えても人々から愛され、残り続けている建築がある。それらに共通するものは土地に対する素直さであり、その姿勢が美しく映り、人々の心を捉えるからだと思う。その場所に建つ意味に真摯に向き合い、解答を導き出すことが、設計者に許された職能であるとともに担うべき職責であり、時を超える建築を創る唯一の方法だと考えている。歴史、風土、環境、都市との調和。天から舞い降りたような「図」としての建築ではなく、もっと土着的で、そこから生えてきた「地」としての建築。その土地の物語を紡ぐ、語り部のような建築を目指したい。

■すいせん者

塩田哲也
㈱日建設計 設計部門 設計部長

金光教大阪センター

撮影：東出清彦



松江市総合体育館

撮影：SATO PHOTO 佐藤和成



和歌山地方合同庁舎

撮影：時空アート

